

支所だより

東予・丹原・小松の各総合支所管内での、身近な出来事や話題などを紹介するコーナーです。

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

親子の夢を乗せて大空へ

～東予凧の会～

たこ
凧あげは、わが子の誕生祝いや五穀豊穡、商売繁盛、大漁祈願などの願いや夢を込めて、江戸時代後期から新年の遊びとして全国各地で親しまれてきました。

そうした中、親子のふれあいや青少年の健全育成を目的として、昭和62年に三芳地区で発足したのが「東予凧の会(武田 功会長)」。

凧に子どもの健康や夢を託した活動は、今年で25年を迎えます。設立当時は、大凧合戦で有名な五十崎町の凧作り名人の指導を仰ぎ、凧に貼る紙に五十崎から取り寄せた松ヤニ入りの雨風に強い和紙を使用したり、骨に地元の老人クラブの方に加工してもらった真竹を用いるなど、大変な苦労と地域の応援により凧あげ大会開催にこぎつけたそうです。

また河北中学校には、平成4年2月に少年式を迎えた当時の2年生製作の「自覚・立志・健康」をテーマとした3枚の見事な武者絵の大凧が、生徒たちの気概を表す象徴として現在も飾られています。

今では会員の半数近くが指導者となった「東予凧の会」。毎年1月に東予運動公園で開催されている西条市凧あげ大会に向けた各公民館での親子凧作り教室の指導だけでなく、有名な静岡県浜松市や香川県丸亀市などで開催される凧あげ大会に遠征して各地の代表と交流を深めながら、さらにその腕を磨いています。



河北中学校の立派な大凧(写真上)と親子で参加する凧作り教室

丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

あたご柿の里で干し柿づくり

～田滝小学校～

あたご柿の一大産地として知られる丹原地区の田滝小学校では、干し柿づくりが年末の恒例行事となっています。

去年は、全校児童11人の田滝小学校に最寄りの徳田小学校から72人の全校児童が駆けつけ、干し柿づくりを応援しました。田滝青果出荷組合のご厚意により提供いただいた約750個の柿を、まず1・2年生がヘタを取り、その後3

仲良く柿の皮むき



・4年生はピーラーで、5・6年生は包丁で皮をむきました。慣れない手つきの下級生に上級生が教えながら、みんな真剣な表情で取り組んでいました。皮がむけると、ひも

を通し2個1組で竹ざおにつるし、運動場の仮設テントに干します。全員のチームワークで、オレンジ色に輝く柿のすだれが完成しました。

その1週間後からは「おいしくな〜れ」と願いを込めて毎日の手もみ作業が続きます。そして、ほぼ1カ月後にはきれいに渋が抜けて、飴色の甘い干し柿になりました。

出来上がった干し柿は、毎年楽しみに待っている地域の一人暮らしのお年寄りや徳田小学校の児童らにも贈られ、笑顔の輪が大きく広がりました。

小規模校ならではの地域に根ざした活動は、地元産品への親しみを深め、また手先の器用さを身につけるなどの成果を上げています。



完成した柿のすだれ

小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

伝統の法螺貝(ほらがい)の音

～地域文化を継承する中学生～

小松中学校には、総合的な学習の時間に法螺貝の吹き方を学ぶ「小松タイム」という授業があります。担当は村上正人先生で生徒は男子ばかり22人。講師は西日本各地の催しに招かれ法螺貝の音を披露したり、吹き方の指導を行っている小松町新屋敷の近藤賢二郎さんと西田の岩本廣志さん。近藤さんは法螺貝製作者でもあります。お二人の指導のもと、法螺貝の持ち方や基本的な3種類の吹き方などを「小松タイム」では13回にわたって学びます。

法螺貝は、かつて石鎚山の登山口としてにぎわったJR伊予小松駅周辺で、お山開きの時に山伏姿の行者などが吹き鳴らしていて、小松地区の伝統文化ともいえます。

小松中学校での取り組みは8年目を迎えますが、周桑商

工会小松支所も法螺貝の継承に力を入れており、毎年夏に開催される小松町ふるさと祭りの行列では、法螺貝を吹く白装束の集団が先頭役を担っています。その中には法螺貝の吹き方を学び始めて3カ月の中学生も加わっています。

また、昨年11月に成就社で開催された「石鎚山法螺奉納大会」には、昼休み返上で毎日練習を重ねた中学生5人が参加し、みごと西条市長賞に輝きました。さらに、小松中学校の文化祭でも「小松タイム」で学ぶ全員が、伝統の法螺貝の音を全校生徒と保護者の皆さんに披露しました。



法螺奉納大会と文化祭で練習の成果を披露する「小松タイム」で学ぶ皆さん